

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／香西 武

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教育実践を念頭に置いた専門分野の授業を行う。そのためには、授業内容がどの校種のその内容と関わるかについて学生に伝えながら、観察、実習等も取り入れながら授業を行う。成績評価に関しては、講義内容に即した多様な観点からの評価を行う。

2. 点検・評価

小、中、高等学校の内容と関連させながら授業内容を構成した。さらに、野外での観察も学部授業で2日、野外巡検で3日、大学院の授業でも5日程度実施した。座学に偏らない授業で学部生、大学院生から好評であった。また、成績に関しても、出席、レポート、野外での観察等多様な評価を行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

出口保障として、就職指導に関して担当学生や指導を希望する学生に対して小論指導、面接指導などを行い、学生の就職活動を支援する。

2. 点検・評価

4月当初より、理科の学生に対して小論指導、面接指導などを行い、学生の教員採用試験への対策を行った。その結果、10名中9名が教員採用試験に合格した。さらに、臨時教員についても学生に積極的に紹介し、教員採用試験不合格者へのアドバイスをを行った。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

専門的研究に偏らず、教育実践に関わる研究、国際貢献に関わる研究も行っていく。

2. 点検・評価

小・中学校における理科教材の開発とその授業での効果について検証を行い、論文としてまとめた。また、国際貢献については、エチオピア教育局職員研修を行い、そのフォローアップで現地を訪れ、校内における教員の力量形成の方策について研究した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

講座主任として、講座の意見を取りまとめつつ、円滑な運営を行う。学校現場との連携をはかり、本学が教育現場と緊密な連携を図っていることを草の根で伝えられる活動をしていく。また、教育実践演習、モデルコアカリキュラム開発チームの一員として、その開発に協力する。

2. 点検・評価

コース長として、難問が山積する中で、理科教育担当者の決定、退職予定教員の補充人事、またそれに伴う昇任人事等を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

国内貢献: 教育研究団体主催の研究会での助言や研究指定校での助言などを通して, 研究成果の社会貢献をはかる。
国外貢献: JICAの研修に積極的に参加し, 研究成果に基づく研修を実施する。また, 可能な限り現地での指導を通して, 国際貢献をはかる。

2. 点検・評価

徳島県中学校研究大会での指導助言, 愛媛県松山市立高浜中学校の研究指定に対して, 指導助言者として活動した。また, 附属小学校の研究会では, 助言者として運営に協力した。
2005年3月に本学を修了したガーナ, ウィンネバ教育大学講師アクア・サキナ氏をJSPSの奨学金得て国際学術研究員として2ヶ月間本学にまねいた。また, 11-12月はケニアに協力し, エチオピアの研修を実施した。さらに, 3月にはエチオピアにてフォローアップ研修を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)